

# Sutrum

シュトルム

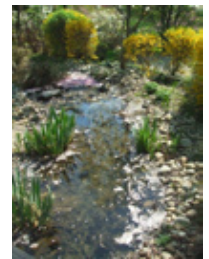
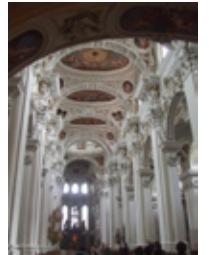
第8号 平成22年5月23日発行

長らくお待たせしました！初夏の爽やかな風にのせて Sutrum 8号をお届けします。窓を開け、季節の空気を吸い込むと、伊都さんのヴァイオリンの煌めく音色のように、自由でのびやかな心で日々を過ごしたいものだなあ・・・などと思ってしまいます。今年度も、皆さんどうぞよろしく願いいたします。

## 近況報告

復活祭も終わり、いっせいに花が咲き始め、緑が色濃くなる5月、ウィーンの街の人々が1年のうちで一番、学生は学業に、会社員は仕事に、自分自身に集中する季節です。音楽界でも、イベントにとらわれることなく、地味だけれどしっかりとした内容の濃いコンサートが開かれます。特に5月中盤に開かれる、ウィーン市をあげての芸術週間では、円熟を極めた演奏家たちが競ってコンサートを行なうので、ほぼ毎日コンサートに足を運ぶ生活となります。私は今回この週間中のコンサートには出演しませんが、例年ならば試験で忙しい6月に、教会をはじめ、小さな個人ホールや老人ホームのサロン（ウィーンの老人ホームは芸術的なことにとっても熱心で、毎週のようにコンサートが開かれたり、演劇が上演されたりします）でミニコンサートを合計10回ほどすることになりました。このミニコンサートは通常のコンサートの半分の時間で、間に休憩を挟まず、一気に演奏するスタイルなのですが、とても好評でこれからも続けていきたいと思っています。

【伊都】



## 初のTV出演！

3月1日、J:COM 横浜TVに出演しました！ 「はまっこアイ」という横浜の情報番組で、山手芸術祭の告知とともに、そのメインイベントの出演者として紹介され、ベーリックホールからの生中継で「タイスの瞑想曲」を演奏しました。司会者のインタビューでは、ウィーンでの生活や演奏した感想など聞かれたようですが、伊都さんは「あまり覚えていない…」とのこと。やはり緊張しますよね。

夜7時から30分間の生放送で、夜の神秘的な西洋館の演出として、ホールの居間に2台と庭園に1台、計3台のカメラからの演奏の映像となったようです。

その後、3月7日まで毎日再放送されたそうですが、ご覧になった方はいらっしゃいますか？ J:COMのサービス地域が横浜では中区、西区、南区、磯子区ということと、ご本人の遠慮深い性格もあり、皆さん「知らなかったわあ！」状態だと思います。（実は後援会も知りませんでした。）

それにしても、日本での地道な活動がこのようにTV出演という形で実り、拠点である山手西洋館から伊都さんの存在をアピールできたことは、ファンとして最高に嬉しいことです。

伊都さん所有の録画DVDを、いつか皆さんと一緒に見る機会があれば、と思っています。



司会者からのインタビューに緊張の面持ち



布川館長、ピアノの中野友裕さんと

## ベーリックホールコンサート

3月6日、横浜山手芸術祭のコンサートとして伊都さんの演奏会が開かれました。今回のテーマは「ヨーロッパからの手紙」。オーストリア（クライスラー、シューベルト）イタリア（パガニーニ）、スペイン（サラサーテ）、チェコ（ドヴォルザーク）、ロシア（ラフマニノフ）、フランス（マスネ）、ドイツ（R. シュトラウス）などなどヨーロッパ各国の作曲家の作品や、「シチリアーノ」「スペイン舞曲」など、まさに音楽で旅行をしている気分。伊都さんの各曲の説明もたっぷり入り、異国にいるようなベーリックホールの中で、しばし心はヨーロッパに飛びました。

作曲家や曲の背景についての伊都さんの知識の深さは、さすがプロ。彼女自身の思いもよく伝わり、話だけでも聴きごたえがある上に、あの演奏ですから・・・。

伊都さんは大変だったと思いますが、これも次へのステップを探る新しい試みのように感じました。

また後半最初は、今年生誕200年に当たる、ショパン（ポーランド）の「幻想即興曲」を、ピアノの中野友裕さんが熱演。素晴らしい演奏でコンサートを彩りました。



楽しいトークに会場もなごみます



ベーリックホール布川館長と



ケーキのお代わりいかがですか



室内の時間はゆったりと流れます

## 第2回TRAUBEN親睦会

元町公園の桜がチラホラ咲き始めた3月22日、山手234番館で第2回の親睦会が催されました。参加して下さった会員は16名。ケーキやサンドイッチを食べながら、伊都さんを囲んでおしゃべりを楽しみました。演奏タイムでは、小品を5曲も聴くことができ、ちょっとしたミニコンサートのように、皆大満足！ クラシック音楽に堪能な会員の方からは、専門的な質問も出てクラシック談義にも花が咲き、少人数ならではの距離の近さ。穏やかな春の一日、贅沢な時間が過ぎてゆきました。今年度も伊都さんのスケジュールさえ合えば、暑い夏より、気候の良い時期に親睦会を計画したいと思いますので、皆様のご参加をまたお待ちしております！

## 今年度コンサート予定

2010年12月21日（火） 第8回 加納伊都ヴァイオリンリサイタル  
横浜みなとみらい小ホール 18：30 開場 19：00 開演

9月（詳細未定） TRAUBEN 主催 イギリス館コンサート  
後援会会員は座席の先行予約ができます。  
次回7月発行のSutrumでご案内いたします。



## いとちゃんのクラシック講座

O.P. 8

前回と前々回に、オーケストラとオルガンについて書き、書ききれず、「つづく」と記したので、本当は両方とも完結させなければいけないのですが、何事にもルーズな国、オーストリアに暮らしていることでお許しをいただいて、今回はウィーン生まれのピアニストフリードリッヒ・ゲルダについて触れたいと思います。というのも今年2010年5月16日は彼の生誕80周年、没後10周年（没日は違います）ということで、ウィーンでも彼を追悼、記念するコンサート、企画が数多く行なわれたからです。ゲルダは20世紀を代表するピアニストの一人で、バッハやモーツァルト、そしてベートーヴェンなどの古典を得意としていましたが（1967年に録音された2度目のベートーヴェンのソナタ全集は、名盤として有名）、ジャズに傾倒、クラシックとジャズ、両方の分野で活躍しました。彼の目指したものは古いものと新しいものの融合であるとか、新しい音楽を確立しようとした挑戦者だとか様々なことがいわれていますが、彼の演奏を聴くと誰でも思うことは一つ、音楽は楽しいものだ！ということではないかと思います。「ゲルダ ノン・ストップ」などジャズがかったものからクラシックの定番まで網羅しているCDもありますし、一度彼の演奏を聴いてみると、好き嫌いはわかれるかと思いますが、クラシック音楽というゆるぎない「伝統」が少し違って見えてくるかもしれません。最後に、彼は死ぬ1年前、1999年3月ごろ、マスコミに自分が死去したという偽の情報を流し、マスコミが騒ぎ始めた数日後に生き返ったという設定で復活コンサートを開くという奇妙な行動を起こしました。そして本当に1年後に亡くなったのですが、その時、本当に死んだのかどうか話題騒然となったそうです。天才の考えることはやはり一味違います。 【伊都】



## DVDクラシックコレクション

## 第4回 「クララ・シューマン愛の協奏曲」

～シューマンの妻クララを慕う若きブラームス～

2008年ドイツ、フランス、ハンガリー合作映画

- ストーリー 夫の曲を演奏する名ピアニスト、クララに惹かれる20歳のブラームスは、やがてシューマンに才能を認められ、一家と同居生活を始める。持病が悪化し、アヘンに依存していくシューマンをクララは献身的に支えるが、ブラームスのクララへの愛に嫉妬し、音楽家としても行き詰まり、シューマンはますます病んでいく。
- 見どころ 作曲も演奏も指揮までもこなす才能溢れるクララ。7人の子供の母でもある。その前向きな強さは現代を生きる女性にも共感できる。危うい三角関係もドラマチック。
- 感想 若くてイケメンのブラームス。現代なら、14歳年下でもOKなのに・・・シューマンを敬愛するクララはブラームスを息子のように思い、夫の死後も彼の愛を受け入れることはなかった。一方ブラームスはクララを一生愛し続ける。ああ、もったいない！  
ブラームスが子供達に歌う「ブラームスの子守歌」はとても素敵。

**編集後記** 朝の慌ただしい時間に、正しい時間と世の中の情報を知るために点けていたテレビのニュースショーを消して、FMラジオのクラシック番組を聴き始めたところ、あら不思議、時間がゆっくり過ぎていくのです。ただ難点は、朝からずっしり胃に伝わる重い曲もかかるころ。そんな時は即座に他局に変えてしまうのですが…。クラシックに決して明るくない私が伊都さんのお陰でその良さに触れるようになってから、ちょっと生活に新鮮な味がつきました。古いもののはずなのに、伊都さんに感謝、ですね。 <ゆ>

発行：加納伊都後援会  
TRAUBEN  
〒231-0835 横浜市中区根岸加曾台15  
TEL：045-622-6780  
FAX：045-621-6423  
Email：itoviolin-kouen@memoado.jp  
Homepage：http://www.ito-vn.jp/